

平成27年度第2回四日市市総合教育会議

平成27年8月19日

午前10時 3分 開会

○館政策推進部長 それでは、定刻を過ぎましたので第2回の総合教育会議を開催いたします。杉浦委員から連絡があり、若干遅くなるということでした。先に始めておいていただきたいということでしたので、始めさせていただきます。

前回に引き続きまして、私のほうで司会進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。まず、本会議ですが公開でございますので、傍聴や記者の方の取材があるということですのでよろしくお願いいたします。

1 構成員紹介

○館政策推進部長 まず、事項書1、構成員の紹介にまいります。8月から、これまでの田代和典教育長にかわりまして、葛西文雄教育長が就任されました。また、新教育長の就任によりまして、教育委員会も新制度に基づく体制となりました。今回、葛西教育長は初めて総合教育会議にご出席ということでございますので、まずご挨拶を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○葛西教育長 先ほど館部長から説明がありましたが、教育委員会も新制度に基づく体制となりました。新しい教育委員会制度が4月1日から施行されているわけですが、60年ぶりに教育委員会制度を抜本的に改革されました。5月の段階では、新しい教育長になったというのが全国でも約2割で、三重県でも、桑名市、鈴鹿市が新しい教育長で制度を運用すると。やはり効果的な運用というところが一番の課題になっておりまして、ここが一番大きく変わったんじゃないかなと思っております。

この総合教育会議ですが、大綱の策定等を通じて、市長と私ども教育委員会が十分に意思疎通を図りながら教育行政を進めていくと。最も魅力に感じているのは、ここで協議、調整することによって、両者が教育政策の方向性を共有して、一致して執行できる、まさしくオール四日市で本市の子どもたちの教育を充実していただけるということで、大変うれしく思っております。

この趣旨を踏まえて、保護者や市民の皆さんの期待に応える、それこそ開かれた教育行

政を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○館政策推進部長 どうぞよろしく願いいたします。

それでは、新教育長をお迎えいたしまして、お手元に構成員名簿がございます。新しい構成員の名簿構成になっております。どうぞご覧いただければと思います。

2 四日市市「教育大綱」（素案）について

○館政策推進部長 それでは、事項書を見ていただきますと、これから2番、3番、4番という形で会議を進めてまいりたいと思っております。

まず、2番、四日市市の教育大綱の素案に入っていきたいと思っております。

前回の会議で、皆さんの教育に対する思いや、大綱の策定に関してご意見をいただきました。そのいただいたご意見をもとにして、事務局において大綱の素案を作成させていただきました。その素案について今日はご議論をまずいただきたいと思っております。

それでは、お手元に教育大綱の素案という資料がございますので、この資料に基づきまして事務局からご説明をさせていただきたいと思っております。

事務局、よろしく願いいたします。

○吉田教育監 おはようございます。

それでは、ご説明をさせていただきますので、どうぞよろしく願いをいたします。

4月22日、第1回の総合教育会議が開催されて、四日市の教育をつくる5つの理念についてご議論をいただきました。それをもとに、本日お手元に素案を1ページから6ページまで、6ページは参考資料という形になっておりますが、ご提示させていただくこととなりました。

それでは、早速素案についてご説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、1ページをご覧ください。

冒頭教育長からもありましたが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴って、新教育長制度や総合教育会議の設置、首長による教育に関する大綱の策定など、教育委員会制度が大きく変わりました。

今回、この教育大綱につきましては、教育の目標や施策の根本的な方針を示すものということで、教育基本法第17条に規定する根本的な方針、これは国の教育振興基本計画第

2期で平成25年度から29年度という形でありますので、それを参酌して定めているというものでございます。

また、本市では、ご存じのとおり、平成23年度に市全体の総合計画が策定されまして、その基本目標5、「心豊かな“よっかいち人”を育むまち」について、そこで教育に関する記述がございます。また、それをもとに、学校分野におきましては、「輝く よっかいちの子ども」の育成を目指した学校教育ビジョンを策定し、市としての教育振興基本計画を位置づけております。

今回策定します四日市市の教育大綱につきましては、この教育総合会議の議論を経て、基本的な理念を定めるものでございます。このような中で、今ご説明をさせていただきましたが、下の図のような形で構成をしているということをご承知おき願いたいと思います。

2ページに進みますが、今回策定します教育大綱につきましては、期間はおおむね5年、平成28年度から32年度を対象期間として実施していくということで、3の四日市市が目指す教育のところがございますが、今まで進めてきた教育、それと、今後目指す教育の方向性を勘案して、5つの理念にまとめたものでございます。

中段に、子どもたちが、新しい時代をたくましく生き抜くためには、夢や志を持ち、学ぶことと社会とのつながりを意識しながら、自立した人間として生きる力が必要ですよというようなことを記述させていただき、また、今まで四日市市が大事にしておりました多様性を尊重する心や豊かな人間性を育むためのコミュニケーション能力、このことについても記述をさせていただいております。

次の段落につきましては、学力のことについて、あるいは学習状況のことについて記述をさせていただき、最後は体力のことについて記述をさせていただいているところです。

このような実態を受けて、一番下の段落になりますが、社会人になっても通用する問題解決能力の養成をするとともに、市民が心豊かさを実感して、ふるさと四日市に誇りを持つ教育のまちよっかいちの実現を目指す、四日市市の教育を支える5つの基本理念を3ページから5ページまでに示させていただきました。

まず、3ページ、4ページをご覧くださいと、四日市市の教育を支える5つの基本理念ということで、まず1つ目が、社会人になっても通用する問題解決能力の養成ということで、子ども自身が身につけた知識、能力を実生活でも応用するとともに、他者と協働しながら問題を解決していく主体的、能動的な能力を問題解決能力と位置づけながら、学校での学びを社会で生きて働く力に結びつけようという趣旨でございます。

2番目、豊かな人間性と健やかな体の育成という形で、ここにつきましても、先ほど四日市が大事にしてきた、「共に生きる力」を中心に、豊かな人間性と健やかな体を育むことは、「共に生きる力」の基盤となるというようなことで、体験活動を通して、子どもたちの豊かな心とたくましい体を育てていきたいということです。

4ページに移ります。

3、夢や志の実現に向け、自ら学び続ける意欲・態度の涵養でございます。

このことにつきましても、常に学び続けること、このことが今非常に話題になっておりますが、この姿勢をもとに、キャリア教育の充実を図りながら、本市では連携型の小中一貫教育の充実を図りながら、将来の社会貢献や自分自身の人生の充実、幸せにつなげていくというようなことで掲げております。

4番目、都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進ということで、四日市市が成り立っている歴史的なもの、それから、多様な産業集積等のことにつきまして、本市の強みを生かして、四日市に生まれた誇りと愛着を持つ心豊かなよっかいち人の育成に努めてまいります。

それから、5ページへ移ります。

家庭・地域と連携・協働した教育の実現でございます。

このことにつきまして、まず、教育につきましては、家庭の役割が大変重要であるということ。そして、その中で、地域、学校、家庭、行政等が一体となって、子どもにかかわる全ての人々がともに支え合うことが大変大事であるということも認識をされているところ。子どもの成長とともに家庭や地域が成長を促すことができるような、今、四日市版コミュニティスクールの取り組みを核として、教育の実現を目指していきたいと考えております。

この5つの基本理念を実現するために、四日市としては、引き続き学習環境の充実や学校の施設の整備など、子どもたちを取り巻く教育環境の充実に努めてまいりたいというようなことでまとめさせていただきました。

6ページは参考資料でございますが、市の総合計画の中にあります基本目標5、「心豊かな“よっかいち人”を育むまち」及び、現在策定も進めている学校教育ビジョンの抜粋を上げさせていただきました。

以上で説明を終わらせていただきます。

○館政策推進部長 ありがとうございます。

前回、皆様からいただいたご意見を反映するような形で5つの柱にまとめて、素案という形で提示をさせていただきました。

本日はここが主眼になるわけでございますが、この素案に関しまして、皆様方からご意見を頂戴したいと思っています。

例えば、もっとこの表現をこういう表現にしたら良いのではないかとか、あるいは、こういう部分をもうちょっと書き加えるべきではないかとか、何かお気づきの点がございましたら、何でも結構でございますのでご意見を頂戴したいと思います。どなたからでも結構です。この趣旨は何かとか、この意味合いはどういうことかといったようなご質問でも結構です。どうぞ、松崎委員。

○松崎教育委員 この理念というのは、市民に一応提示をするという形になるわけですね。

○館政策推進部長 大きく公表していきます。

○松崎教育委員 大きく公表するということですね。そうすると、大変すばらしいなど1つずつ読ませていただいたんですけども、3番の夢や志の実現に向け、自ら学び続ける意欲・態度の涵養の「涵養」という言葉が、常用漢字でもないので、平仮名を振るなり何かちょっと必要かなと。

○館政策推進部長 別の言葉ですね。

○松崎教育委員 はい。言葉を変えたほうがいいんじゃないかなという気がまずしたんですけども、どうでしょうか。

○加藤教育委員 そういう意味では、関連して、「養成」と「育成」と「涵養」という、このあたりの言葉の使い方も、原案をつくっていただくときに、おそらく思いはあるんだと思うんですが、あえてこの言葉を使ったことの説明をお願いしたいと思います。

○館政策推進部長 いかがでしょう。まず、1番と2番で「養成」と「育成」の使い分けは、何か意味がありましたか。

○長谷川教育総務課副参事・政策グループリーダー 事務局から申し上げます。

このあたりの表現につきましては、前回のご発言のときの言葉をお借りした部分もございますが、まず、養成と育成の違いですが、やはり養うと育むという言葉のニュアンスから分けさせていただいておると、涵養は確かに難しい表現ではございますが、前回発言もございましたので、まず案としてお出しいたしました。何かほかに代わる、わかりやすい言葉があるのであれば、それに置きかえることもできるのかなと思っております。そ

ういうところでまたご議論いただければと思います。どうぞよろしく申し上げます。

○館政策推進部長 特に基本理念のところの柱のところなので、言葉は大事です。この際、ここでもう解決しておければと思います。

○渡邊教育委員 2のところでは、育てる、育て上げるというようなところで育成というのが使われるのがいいんだろうというふうに使われたんでしょうね。1は、かなり長いスパンでもってずっと養っていくという、あえて解釈するとそういう解釈だと思うんですけど。

そうすると、3番目のところで、夢や志の実現に向けてずっと生涯学び続けていくというような態度をどうしていくのかというところに、この涵養という言葉が難しいとすると、何かかわる言葉があるのかなというような、考えあぐねているんです。ニュアンスはそういうふうに使われておられるんだろうなと読み取ることができます。

○田中市長 意欲、態度という言葉につながるのはやはり涵養かなと思いますが、微妙な違いなのでね。ただ、1、2、3の養成、育成、涵養は、ニュアンス的にはこれでいいのかなと僕は思いますが、涵養については、もっといい言葉があれば入れ替えればいいと思います。字が難しいので振り仮名はつけたほうがいいと思います。

○館政策推進部長 最低まずそれですね。

○渡邊教育委員 なかなかかわる言葉が見つからないので。

○加藤教育委員 でも、全て育成にしてもちょっとおもしろくないですよ。

○館政策推進部長 意味合いが違いますよね。

○加藤教育委員 ニュアンスが違いますので、そのあたりを、例えば、下の文章の中で涵養の意味合いを少しやわらかくした言葉でとか、養成とあえて使ったのも、長いスパンで見えていきたいと思いますという養成なんですという意味合いが出てくれば、よりこの言葉の重みというのは出てくると思いますので、難しい宿題になるかわかりませんが一度事務局で考えていただくと、あえてこれを使ったことによるインパクトというのも私はあると思います。

○館政策推進部長 そうですね、下に言葉をつけ加えたら良いかもしれません。

○加藤教育委員 多少、それをかみ砕くような表現なり記述があれば。

○館政策推進部長 イメージとしては、養成は、長期間できちっと養っていく。2番は、教育の中で育てていくというような意味合いに捉えていく。涵養は、最低まず平仮名を振るということ。もし、これにかわる言葉が見つければそれにしますが、ないようであれば、

3番の一番下の段落の、「学ぶ意欲の態度の涵養を図り」というところに、少し説明を加えていきましょか。それは、宿題にさせてください。

○加藤教育委員 別の視点でよろしいですか。

まず、4番の四日市の特徴を生かしたという、まさに学力向上のための懇談会でもこのあたりを今後も際立たせていきたいところなんです、その意味ではちょっと書きぶりが少ない。量的にも見た目にも大分空白がありますし、ここにぜひ具体化の大きな手だてといますか、企業との連携や四日市公害と環境未来館の活用、このあたりを書き込んでいただいたほうがよいのかなと。四日市ならではのところが少し弱いかな。状況は今述べてもらってあるとおりになんですけど、だからどうするという書きぶりが少ないような気がいたします。委員の皆さんはいかがでしょう。

○館政策推進部長 ここですみません、杉浦委員にご参加いただきました。

○杉浦教育委員 申し訳ございません。

○館政策推進部長 よろしくお願ひします。

○加藤教育委員 企業連携という言葉もありますし、四日市ならではのところで。

○葛西教育長 これは小学校5年生の社会科の教科書なんです、今年から国土の環境を守るということで、四日市市の公害の事例、それから、これを克服してきた過程について、12ページにわたって教科書で取り上げられています。子どもたちはこれを学習して、環境部や教育委員会の資料もさらに学習をして、それから、四日市公害と環境未来館へ行って語り部の人から話を聞くなど、非常に長いスパンで学習していく、これはまさしく四日市市にしかできないことだと思いますので、今、加藤委員がおっしゃった点につきましては、やはり産業と環境、それから、四日市公害と環境未来館、それはやっぱりキーワードとしてぜひ入れていただけたらなと思っています。

○加藤教育委員 さらに言わせていただくなら、4の下のサブタイトルで、「ふるさと四日市に誇りを持ち」という記述がありますが、この部分はあまり後ろに書いていないんですよね。だから、やっぱり誇りを持たせるというのは、今、教育長がおっしゃった、四日市というのは頑張っているんだと、四日市に生まれてよかったという、そういう機会をできるだけ、まさに養成しているような、あるいは涵養するような内容をここの部分に記述があるといいかなと。

○館政策推進部長 さらっと「四日市に生まれた誇りと愛着を持つ」とするのではなくて、もう少し詳しくですね。

○加藤教育委員 むしろ4番というのがまさに四日市の大綱になりますので。

○渡邊教育委員 そうですね。そこは大事にしたいところですね。

○加藤教育委員 もう少し踏み込んでいただいたほうがいいのかなというような感じがします。

○葛西教育長 四日市の地域の豊かな自然や伝統文化、やっぱりこういうものにも子どもたちは目を向けて、そして、それを継承していくような子どもたちにもしていきたいので、ぜひそういうことも入れていただきたいと。

○館政策推進部長 そうすると、少し整理させていただきますと、四日市公害と環境未来館であるとか、あるいは企業連携といったような言葉をキーワードとして入れていく中で、教育長が言われたように、勉強したことをそういうところでまた体験学習するとか、そういったことを少し入れたほうが良いかもしれませんね。

それから、「誇りを持ち」というところをもう少し厚みを持たせて説明したほうが良いのではないかということですね。

○加藤教育委員 2行で。

○館政策推進部長 2行であるだけです。

○加藤教育委員 抽象的な表現ですので、もう少し具体があるとありがたいですね。

○館政策推進部長 四日市に生まれてよかったということは、キーワードというよりは、もう少し説明をきちっと記述するということですね。そのときに、四日市の自然や伝統文化に愛着を持つと、そういう言葉もキーワードとして入れていければ良いのではないかということですね。わかりました。ありがとうございます。

○田中市長 バランス上、あと4行ぐらいは記述した方が良いでしょう。

○館政策推進部長 量的にですね。

○田中市長 僕の意見としては、1行目、「東海道の宿場町としての歴史」とありますが、歴史だけになっているので、先ほどもご意見が出たように、豊かな自然というのも地域資源という意味で要ると思う。それから、文化という言葉が入っていないので、これも必要と思う。

それから、こういう言葉を使っていえば、高度な環境技術と言ってしまふよりも、もう少し範疇を広げて、公害対策のモデル都市として歩んできたこととか、公害対策の先頭を走ってきたということもある。

○渡邊教育委員 公害を克服する歴史ですね。

○**田中市長** モデル都市として歩んできた歴史は、東海道の宿場町としての歴史と重なるので、その辺の表現は考えるとして、公害対策のモデル都市としての歩みが1つの地域資源であり、負の遺産を資産に変えてきた。そこまでは言えないかもしれないが、モデル都市としての歩みというぐらいいいのかなと思います。

それと、最近の魅力を打ち出している部分で、産業観光や全国的な文化事業とか、そういったものを新たな魅力として、地域資源として少し入れたらどうかと思う。

○**館政策推進部長** 新たな誇りとしてですね。

○**田中市長** それにつながる魅力としてね。

○**館政策推進部長** 最近のですね。

○**田中市長** コンビナートの夜景というふうに入れてしまうと少し限定し過ぎるので、「四日市独自の産業観光」といった記述にし、ファミリー音楽コンクールも固有名詞を入れずに、「全国的な文化事業」とする。

○**加藤教育委員** そこまできちっと述べていただくと、僕は、4番は1番になるべきだと思うんですよ。これを1番にして、そして、あと、1、2、3、5とつなげていくほうが四日市の大綱としてはおさまりがいいのかなと。

○**館政策推進部長** 四日市らしい大綱としてですか。

○**加藤教育委員** はい。ぜひ4番は1番に。順序性があるって、1番、2番は必ずしも物事の順序ではないんですけど、一般的にぱっと見たときに、第一に入ってくるのはこの4です。反対に4は、もう少し膨らませて、それこそ1番として1ページを使ってもらってもいいと思います。1、2、3、5は今の4分の1のページでもいけますので、ぜひ4番を1番にさせていただくというのはいかがでしょうか。四日市をアピールしたい。

○**館政策推進部長** いわゆる四日市らしい大綱にするということですね。そこを出すためにもということもありますね。

○**加藤教育委員** もし4番がなかったら、どこの市でもいってしまうことでもありますので、ぜひ四日市の独自性なり、インパクトという意味で。

○**館政策推進部長** いかがでしょうか。

○**加藤教育委員** 場合によっては、1番で1ページを使ってもいいかなと。

○**渡邊教育委員** ボリュームもそれぐらいに充実させるということですね。

○**加藤教育委員** そうです。あとは、それを追うものとして、今の提案の1番、2番、3番、5番と流れていくのかなと。市長のお考えもございますが。

○館政策推進部長 どうでしょうか。

○田中市長 これは、一般的なテーマについて四日市はこういうふうにやりますというので、1、2、3を記述していると思うんですね。四日市の特徴を4番にしてきたという経緯もあると思うんですけども、加藤委員のおっしゃることももっともです。

○松崎教育委員 4番という中途半端なところに入っているというのがひっかかりますよね。それならもう5番に持ってきて、どんと最後を締めるか。

○館政策推進部長 どちらかですね。

○松崎教育委員 2、3、4はくっついていてもいいかなと。

○杉浦教育委員 4ですが、事前に資料を送っていただいたときに、少し読み返して気になった箇所がありまして、2行目の「四日市公害を契機として」という、この言葉の使い方です。皆さん特に感じられなかったのであればいいのですが、公害を契機としてようやく一体となったというわけではないんですけども、書き方としてどうなのかなと個人的に思いました。

市長がおっしゃったとおり、私も、1行目に歴史や文化は欲しいなと思っていたんですが、歴史や文化、自然で製造業を中心とした多様な多くの地域資源に恵まれていますと言い切り型で前に持ってきた後に、四日市公害という単語だけであるのではなくて、既にもう四日市公害を改善してきたという言葉のキーワードが一体になった言葉のほうが今の四日市のイメージに近いのではないかなということを感じました。

そこに至って、蓄積してきた高度な環境技術などということで、決して、高度な環境技術が市内にあるということは、もちろん契機になったのは四日市公害であるとは思いますが、それ以外の側面からも環境技術というのは蓄積されてきていると思いますので、この文章は分けて、丁寧に書いたほうがいいのではないかなという意識を持ちました。

あと、加藤委員がおっしゃった、ここは教育大綱ではあるのでストレートには書けないにしても、四日市のことを愛し、郷土愛を持った人たちが、いずれまた四日市で活躍する人材になって戻ってきてほしいという社会像につながっていくようなところも、ストレートには書けませんが、思いとしてはやはり四日市市の施策としては必要だと思いますので、その辺は生かして教育し、愛着を持ち、また戻ってくるというようなニュアンスがあるとうれしいなというふうにも思いましたので、そういった意味では、今議論になっていました順番からすると、私も1番に持ってきていただくほうが四日市らしさというものがあるという認識を持ちました。

○**館政策推進部長** そうすると、先ほどの4番のところは、今まとめていただいたような形で、これを膨らますという中で分けていくのがいいのかも知れませんね。前段と公害の克服のところは分けさせていただくという方向で、膨らませていく。

「契機」というところはどうでしょう。四日市公害を改善してきた取り組みとか経過とかの中で蓄積してきた技術とか、そういうのはどうでしょうか。契機という言葉でまとめるとちょっと言葉が簡単過ぎますね。

○**杉浦教育委員** 四日市公害というところで単語が1つになっているので。

○**館政策推進部長** わかります。では、そこはそういう方向で。

○**田中市長** だから、市民、企業、行政が一体になったのは、公害克服だけが原因ではないということですね。

○**館政策推進部長** 多分、もともと市民、企業、行政が、それだけで一体じゃなくて、ほかの分野でも協働していたところはあるんですけど、特に環境改善の取り組みの中で、その3者が一体となって克服してきた。まだ患者の方もいらっしゃるので克服とはいえないので、一体となって環境改善をしてきたという表現になりますが、趣旨はよくわかりましたので、それを踏まえて修正させていただきます。

○**田中市長** それと、細かいですけど、四日市に生まれた誇りとありますけど、生まれただけじゃなくて育った人もいるよね。親の転勤で来て、それで育った人もいるので、そういう人たちも含めると、生まれ育ったという表現でどうか。

○**渡邊教育委員** それはそうですね。生まれただけじゃなくてね。

実際、赴任してこられて、四日市にずっと住みかを構えるというような人が結構いらっしゃるんですよ。だから、それはほんとうに他の都市にない非常に大きな強みというか、我々の誇りでもあるんですよ。

○**加藤教育委員** 吉田教育監、例えば、この4番をかなり高らかにうたい上げていただいて、そして、順番はともかくとして、これを大綱の中心的な存在に置くわけですよ。置いていくときに、教育の場で具体的にそれをフォローしていただく手段というか、施策がどれほど出てくるかというのを若干心配するんです。

だから、4番で、例えば四日市公害と環境未来館を活用しましょう、企業等の連携を一層進めていきます、あるいは自然体験など、いろんな体験活動はこの範疇で達成していくんですというようなお考えを持ってもらっているのか、それとも、4番のことに実現するために、1番、2番、3番、5番あたりを大事にしながら4番へ持っていくのかという、

そのあたり、少しニュアンスが変わってくると思うんです。ある程度事務局で、具体的な手だてを持っていないと、絵に描いた餅にもなってしまいますので、学力向上アクションプランの中でも今後こういうことは議論いただこうと思っていますので、一定の方向性は見えてくるだろうとは思いますが、ここで頑張っただけで後がないとなるとつらいものがありますので、あえて今、教育監に少しお話を伺いたいと思っています。

○吉田教育監 3月21日、博物館に併設する形で四日市公害と環境未来館が新設されて、本当にたくさんの方にお越しいただいて、非常にこちらの願っている動きで今進んでおりますけれども、実は、四日市は市独自で、水沢の少年自然の家で自然を豊かに体験するという機会を小学校や中学校でもやっていますし、各小中学校の場面でも、地域にある産業、自然、それから文化資産、遺跡、そういうものを活用して独自にやっています。

そういうことを進めながら、新たなものが含まれますし、四日市こども科学セミナーのような全国に誇れるような取り組みもありますし、JAXAとの提携など、非常に大きく誇れるものがあります。これはあくまでも素案で、第1回を受けた上での話でしたので、個人的な意見になるかもしれませんが、私は、今、加藤委員がおっしゃったように、これを1番に持っていったほうが四日市らしさというのはより強調されるのではないかなと思いますし、施策としてはそういうものが今ありますので、それをより充実していくというようなこと、それから、環境のこと、特に公害については、独自の小学校の資料もつくっておりますし、そういうようなことでは十分、今現時点でも施策としては打ってきているのではないかなと思っています。

○加藤教育委員 例えば、予算的な裏づけも要る話ですけど、必ず小学校5年生段階の社会見学では環境未来館を入れ、入場については一定の配慮する、例えばそんな施策を具体的に、今後つくっていただくんでしょうけど。

○吉田教育監 今年度からもう既にあります。市長のご意向もありまして、市からバス代を出させていただいて、住んでいる子どもたちにより詳しく、きちっと学習した上で、その施設を見て、またさらに学校へ戻って学習するというようなことを今やっています。今年からですが、そこまで本格的にやってきており、語り部さんとの交流も進めております。

○加藤教育委員 具体化の動きがある程度見えておれば、この項目はほんとうにしっかりと高らかにうたい上げていただいて、きちっと四日市の子どもをつくろうという狙いとばしと合ってきますので、それはありがたいことだと思いますね。

○吉田教育監 その辺は、十分達成できるのではないかなと思いますし、余談ですが、四

日市あすなろう鉄道も活用して社会見学なども進めるなど、そういうこともやっております。

○加藤教育委員　そういうものがうまく有機的につながって、体験しながら、大きく四日市の子どもたちを育ていこうという意図が出ないといけませんので。

○館政策推進部長

その確認もさせていただきましたので、4番をもうちょっと充実していくのですが、1へ持っていか5番に持っていか、ここだけでもどうでしょうか。

○田中市長　もしくは、4番をちょっと特出しするかですね。

○渡邊教育委員　1ではなくて、別扱いということですか。

○加藤教育委員　確かに、ほかのものと並列して述べていいのか、今、市長おっしゃるように特出しにするか。

○田中市長　その特出しの仕方をどうするか。

○加藤教育委員　そうすると、2ページにも四日市が目指す教育があるんですね。ここは今あまり議論になっていませんが、これを受けた形で4番が来ることにもなるのかな。基本理念ということで持ってきていますよね。

○田中市長　そうしたら1つの案ですけど、4番をもっと広げて5番のところに持ってきて1ページを使う。あとは、1、2、3、今の5番、これは4分の1ぐらいの量にして、最後は5番で締める。

○館政策推進部長　私もその考えですね。まとめのところにあるほうが良い。

○加藤教育委員　おさまりがいい。

○館政策推進部長　良いかもしれませんね。

○松崎教育委員　そうすると、参考資料の四日市ならではの文化の情報発信といったところの扱いもまた変わってくるということになりますかね。

特に、学校教育ビジョンにはほとんどそれは触れられていませんので、何かの形で入れるとか、基本的政策の2番の四日市ならではの文化の情報発信、あるいは、基本目標の中のみずからの地域に誇りを持ちというところをもう少し違う形であらわすとか、扱いを変えてきたほうがいいかなと。

○渡邊教育委員　これは既にできているものです。

○館政策推進部長　これは、上の3段目までは総合計画の記述です。

○松崎教育委員　これはもう変わらない？

○館政策推進部長 これは変わらないんです。これはもっと網羅的なものでございますので、ここの中の部分を踏襲した上で、さらに大綱で少し膨らませて、それを実施するものとして、下の学校教育ビジョンがあります。学校教育ビジョンは、今、策定中です。

○田中市長 これは整合性をとれるね。

○館政策推進部長 これは整合性をとっていきます。

○加藤教育委員 だから、この中に最後の資料は要るのか要らないのかといたら、なくてもいいんですよ。

○館政策推進部長 最終的には、大綱としては要りません。これはあくまで参考の資料です。

○渡邊教育委員 1 ページの下の図に位置づけというのがあるわけですからね。

○館政策推進部長 あくまで6 ページは参考です。大綱には入れません。

○渡邊教育委員 今の話で言うと、5 番に大きく膨らませて、都市の特徴を生かした四日市ならではの教育の推進というのを持ってくるといって、1 ページのところの図のあらわし方も、1、2、3、4と5のところぐっと大きく、何か特出しの形に変えるわけですかね。

○葛西教育長 これは総合計画の①から⑤になっておりますので、変えることはできません。

○田中市長 これはもう変えようがないです。議決もっております。

○葛西教育長 その中の5が「心豊かな“よっかいち人”を育むまち」ということで、基本計画の基本目標がここに書いてあります。

○渡邊教育委員 それを今回膨らませたと。

○葛西教育長 そうです。

○館政策推進部長 ですから、それを膨らませたのが大綱になる。

○田中市長 そうすると、学校教育ビジョンは極端に変えることは難しいんですよ。というのは、その大綱が、せつかく委員の皆さんのご意見でいいものができ上がるので、項目立ても含めて、それとぴったり整合がとれるようになると非常にわかりやすくなると思う。これは言葉もあちこち飛ぶし、項目が交錯していますよね。だから、大綱の基本理念に合わせた形で学校教育ビジョンができていると一般の人もすごく見やすいと思う。

○加藤教育委員 私も、今日の午後から、学校教育ビジョンの素案の2回目を見せていただくことになっていますが、今の案を読ませていただく限りにおいては、3、4、5の柱

立てと6ページの図、これは旧のもので、今度変わってくる柱立てからいくと、今、市長がおっしゃるような整合はかなりとれていくんだと思いますし、とれなかったら大綱の意味がございませんので、ぜひそのあたりは十分、またフレキシブルに変わっていくと思います。

○館政策推進部長 それでよろしいでしょうか。

○吉田教育監 今、加藤委員おっしゃったように、今日も午後から教育委員会が開催されて、このことについては検討させていただきますが、総合教育会議、それから教育大綱のことを基本に置き、整合をとりながら、学校づくりビジョンは今進めていると私どもは考えています。

○館政策推進部長 その方向でお願いします。

そうしましたら、今、市長からもご提案いただきましたように、きちっと都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進というところである4を5に持って行って、1ページぐらいをとってきちっと記述をするというふうな方向でよろしいでしょうか。

○田中市長 それと、細かいことを言って申し訳ないですけど、基本理念の網かけの下にサブテーマみたいなのが書いてありますよね。このトーンを統一しておいたほうがいいと思うんです。例えば、4のところの社会の一翼を担う人材の育成とありますよね。これは僕が入れたと思うんですけど、3だと主体的・協働的な学びと終わっておるわけですよね。だから、この後の産業と環境、文化が調和するまち四日市の教育との関係で育成ということになっていると思うんだけど、あとの3つとのバランスから言うと、「人材の育成」じゃなくて、「誇りを持ち、社会の一翼を担う人材」というように、人材までで終わっておいたほうが良いのかなと思うんです。

○館政策推進部長 そもそも、この副題についてはどういう感じで位置づけていくのか。これは教育理念、今言った教育の柱があって、この副題はずっとつけていくような感じで運用していくのか。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー 事務局としましては、副題を入れた意図は、1回目の議論のこともあるんですが、やはりタイトルだけではどうしてもニュアンスが伝わらないところを補完するという形で、それぞれの基本理念の位置づけの違いから表現が若干揃っていない部分があって、やはり基本だからこそいろんなニュアンスを含みますので、そのあたりを補完する意図として、理念を理解していただく上でのキーワードやその方向性を表現させていただいておるといことなんですが、当然、先ほどの

市長のご発言のように、揃っているほうが理解するにはよいので、そのあたりはもう少し検討させていただければと思います。

○**田中市長** サブテーマの1行目と2行目がすんなり続いてくるのもあるし、続かないものもあるんですね。その辺の統一感があつたほうがいいのかなど。すんなり続いてくるような表現にするのなら、その方が良いでしょう。

○**杉浦教育委員** 今の市長のご指摘のところ、今度5になる4番、「社会の一翼を担う人材」で切って、「の育成」はないほうがいいのかというご指摘だったんですが、であれば、「人材」で切って、次に、調和するまち四日市の教育にするのか、あるいは、次によっかいち人という言葉が出てきますので、四日市の教育ではなくて、「するまちよっかいち人の教育」とか、ほかの箇所と少しリンクするような言葉を使うのもいいのではないかなど。

○**館政策推進部長** やっぱり下の文章からキーワードを抜いてこないとだめですね。下の文章のキーとなるところを挙げさせていただくと。

○**加藤教育委員** 要約版というか、趣旨はありますからね。

○**館政策推進部長** そういうことでいきます。あとは、横並びで見たときに、それぞれ違うことを表現しているんですね。その調整をさせていただきます。

○**田中市長** 1、2、3、5はトーンが同じなんですよ。4だけちょっとトーンが違うんですよ。

○**館政策推進部長** そこを合わせるように。4を今回大きく改変いたしますので、その中で工夫をさせていただきます。

○**杉浦教育委員** 言葉のトーンのご指摘があつたんですが、例えば3ページの1ですが、これを書きいただく中で、例えば、「課題」と「問題」という言葉をすごく意識されて使い分けられているのかなとか、あるいは、2も「自立」という言葉、この辺も意識して言葉、漢字を変えてみえるのかどうかの確認をさせていただきたいと思います。あとは文章の語尾、「図ります」、「育んでいきます」、「つなげていきます」、「努めます」と、少しずつトーンが違うんですね。同じ言葉で締める必要はないと思うんですが、意識の問題なのか進めるものなのか、その辺は合わせておくほうがいいのではないかと思います。もう既に議論が終わってございましたら申し訳ありません。

○**館政策推進部長** いや、まだです。きちんと整理しておかないと。

まず、1番のところの課題と問題はありますね。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー 問題解決能力の養成というところで、「問題」というところについては、社会で生きていく上で何か問題を解決する。

「課題」につきましては、ある程度子どもたちの乗り越えるべき問題ほどは深くないんですが、これから身につけていかなければならないことというところで、ニュアンス的には問題という言葉のほうがより難しく、やはり能力を必要とするし、より解決の方策について検討を要するという表現で使い分けさせていただく。特に、問題解決能力の養成につながる部分については、問題という言葉を使わせていただいております。

それから、2につきましては、「自立」と、ぎょうにんべんの律の「自律」、まず、「自立」の立つほうはそこで生活していくということと、それから「主体的、自律的」の律につきましては、やはり自分で自分を律するといえますか、コントロールするというところで、自活する、生きていくということと自分を主体的にコントロールするという意味での使い分けをさせていただいたというところでございます。

以上です。

○館政策推進部長 補足すると、1番の課題と問題は、やっぱり課題というのは何か与えられたというか、ある程度明確にわかっている。問題の中でも、我々が通常よく使うときは、問題というのはわけのわからない事象であって、その中を分析していくと課題がはっきりしてくるという感じですね。だから、今回は、問題解決能力というのは、何か問題が起こった原因はわからないし、どういうことが要因かわからないけど、それを実際に解決していけるような子どもを育てていこうと、それが社会につながっていくと、そういうことですね。

あと、1番、2番と語尾の、例えば図るとか、していきますといった表現は、それぞれやっていく側の姿勢を意識しているのでしょうか。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー 全体的には、表現的なところで、読みやすさといえますか、やはり大綱として全市民に見ていただく中で、ある程度やわらかい表現ということも意識させていただいて準備させていただいた部分もありますし、そろえるというところの表現の固さというところもありまして、ニュアンスや書き手のフィーリングの部分が多々あるんですが、やわらかく市民の方に内容が伝わるような表現というところで、事務局としてはこういうふうにさせていただいたところです。

○館政策推進部長 そんな意味であるんですね。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー はい。あくまで全体の文章のフ

イーリングといたしますか、ニュアンス的なところでの表現、語尾のまとめ方というところで、特にかちっとした部分といたしますか、そういうところは、むしろフィーリング的なもののご理解いただければと思います。

○館政策推進部長 ただ、4番はこれから直していくんですけども、最後のここだけは育成に努めますになっています。やっぱり、これは意味合いがちゃんとあって、全部これは今回の施策だけでできないだろうから、少しニュアンスは落としているところはあるかもわかりません。

よろしいでしょうか。

○田中市長 そうすると、今、杉浦先生がおっしゃった最初の課題・問題のところなんですけれども、1の1行目のところで、「課題は一層複雑化し」と、ここで課題という言葉を使ってしまうと、今、館部長が言ったような解釈であればちょっとわかりにくくなるので、問題を分析して、こういう課題があるというふうな解釈をするのであれば、この課題はというのは入れないほうがええと思うけど。社会の変化が激しく、一層複雑化しと、そういうふうにつなげていけば、解釈はそういうふうにするんだということに統一すればね。

○杉浦教育委員 どうしても1文に両方出てくるので。

○田中市長 2つ出てくるとわかりにくくなりますね。

○館政策推進部長 そうですね。意味は通りますね。

○杉浦教育委員 通りますね。

○渡邊教育委員 このほうが通りますね。

○館政策推進部長 ありがとうございます。

ここはそこを外して、課題を取りましょう。

ありがとうございます。

○加藤教育委員 別件でよろしいですか。

5ページの5番の基本理念を実現するために、ここに書いていただいていることは、おそらく予算的な措置も講じながら、より教育環境の充実に努めていきますという1つの宣言だと思んですが、ここも少し余白がありますので、例えば今、新制度になって教育委員のチェック機能の充実の問題や、かねてより教育評価の委員にもお願いして事務局が施策評価も行っていると思いますので、例えば、進捗状況を適切に点検、評価して、各施策が有効になるよう取り組みますとか、そういうチェックなり点検評価のことも、既にや

っていただいていることですが、ここへきちっと、いわゆる大綱の進捗管理をやっていくようなこともここに述べてもらったほうがいいのかと思ってまして、私も、表現はまだ固まっていませんが、そういう表現を入れていただくとよりこの大綱が生きるかなというふうに思います。

○渡邊教育委員 関係者として主体的努力の精神をぐっところへ入れ込む、そういうことによって基本理念を実現するんだという形にすると。

○加藤教育委員 フィードバックをしながら、結果を生かしながら次の施策を打っていきますよという、そのサイクルですね。そこを少し表現いただいたらどうかと思います。

○館政策推進部長 進捗状況をチェックしていくとかいうようなことですね。これは総合教育会議でやっていくんですかね、来年以降は。

○加藤教育委員 これを受けて、教育委員もあってもいいですし、教育施策評価委員もみえますので。

○葛西教育長 もちろん教育委員会会議でもそれをやっていきますけれども、やっぱり節々で、総合教育会議で四日市の教育がどれだけ進捗したのかというのは報告させていただいて、皆さんに議論いただくというふうなことになると思います。

○加藤教育委員 それがないとやっぱりいいものになっていきませんので、ぜひお願いをしたいと思います。

○館政策推進部長 わかりました。そういった旨をここに書き加えさせていただきます。

○杉浦教育委員 5ページの5番ですが、ここだけ「子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせる」ことという、「つけさせる」という表現なんですけど、子どもを主体に考えたときには、子どもが基本的な生活習慣を身につけたり、社会のルールやマナーを学ぶことは家庭の役割が重要だというような表現に変えたほうがよいのでは。

○館政策推進部長 ここだけちょっとおかしかったですか。

○田中市長 主語は子どものほうがいいですね。

○杉浦教育委員 はい。子ども側からの表現に変えていただきたいと思います。

○館政策推進部長 そうですね。すみません、ありがとうございます。そういうふうにしたほうがいいですね。失礼しました。

○葛西教育長 5番ですが、やはり四日市の子ども誰もが自分の能力を伸ばしていけるという観点から、家庭環境だとか、経済環境の厳しい子どもたちの支援、それから障害のある子どもたちへの支援、そういう目配りを今まで四日市はしてきましたから、それは教育

だけでなく、こども未来部、健康福祉部でもやってきていますので、やはり教育的に不利な環境にいる子どもへの支援ということと、それから、行政が連携して、協働して子どもたちを支えていくということも入れていただきたいなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○加藤教育委員 賛成です。例えば、健康福祉の中身というのは、子どもを取り巻く環境の中で僕はすごいものがあると思いますので、より一層ここで大綱として持っていただいたら、小さいところだと保育幼稚園課との連携も当然出てくるんでしょうけど、そういう行政の横のつながりを教育だけが教育とやるんじゃないでなくて、水沢へ行ったら茶農業で産業も関係します、農業も関係しますので、それはありがたいことだと思います。

○館政策推進部長 よろしいでしょうか。

これでいうと、前段には、学校、行政が一体となってということはあるんですけど、その下の結論、こういうことをやっていくというところにちょっとそれが反映されていないので、今おっしゃったようなところを、下段の3段目のまとめのところにその方向性をちょっと入れないとつながらないですね。

○渡邊教育委員 そこですけども、私は、最後の2行のところで、四日市版コミュニティスクールというのは、やはり子どもの成長のためにやることなので、家庭や地域が成長できるというのは、ちょっとそれは拡大解釈過ぎる話なので、むしろ家庭や地域が一緒になって、子どもたちが健全にすくすくと、違いもある中で成長していけるように一体となって支えていくんだという部分がコミュニティスクールですから、家庭や地域が成長できるというのはちょっと違和感を覚えますね。

○加藤教育委員 私もメモしてきました、今、委員長がおっしゃったとおりです。

○田中市長 成長ということはそぐわないですね。

○館政策推進部長 そこまで言うものではないということですよ。

○加藤教育委員 これも押しつけになります。

○館政策推進部長 特に他の施策との関連の中で、今のご意見でよろしいですか。

○長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー はい。

○館政策推進部長 家庭や地域が一体となって子どもを成長させるような四日市版コミュニティスクール、そういう表現でございますね。わかりました。

ここだけ、今、この2行では薄かったなので、もう少し、今、教育長からご指摘いただいたような内容をこの2行のところに含めさせていただきます。

ほか、いかがでございましょうか。

○加藤教育委員 中身についてではないんですけど、せっかくこの大綱というすばらしいのを今つくりつつありますので、これをどう市民の方々や学校現場におろしていくかという手だても、今日話をさせていただくのがいいのか次回ぐらいがいいのか、ぜひ議題の1つとしてご検討いただきたい。

例えば市長の記者発表というのもありますし、どこかの都市がやっていますように、場を設けてアピールをしていましたので、私も具体的な方法論は、今提案をさせていただくことはできませんけど、ぜひぜひ強烈なアピールをぜひやっていただきたい。

○館政策推進部長 次回、まとまった後の話ですね。わかりました。

○加藤教育委員 それも視野に入れながら、今後議論をしていただくとありがたいなと思います。

○館政策推進部長 その前に、すみません。この中身を、これを今日まとめていきたいと思えます。

ほかに、この中身についてどうでしょう。

○松崎教育委員 3番の四日市市が目指す教育のところで、「一方、本市の子どもたちの現状に目を向ける」ということで、現状がずっと書かれているんですが、家庭学習の時間がやや短いこと、携帯電話、スマートフォンなどの使用時間がやや長い、これは今言われていることなんですけど、これに関して大綱には、特にこれを解決するためにどうするかとか、解決まではいかないにしても、方向性など、もう出てこなくなっていますので、これをあえてここに入れるのであれば、何かその手だてのようなことが触れられるとわかりやすいかなということと、その後に運動、体力、能力が来ているということは、それ以上に大切なことだということなので、スマートフォンや携帯電話について、何かもう少し違う形で触れることができればなと思います。でなければ、もう消してしまい、目指す教育というのは、もっと抽象的な目指すもののみを載せると。

○葛西教育長 具体的な施策については、学校教育ビジョンの中で今事務局では検討してもらっています。ただ、全体で出すとすれば、さまざまな取り組みを行ってきたんですけども、学習意欲、学習時間、それから規範意識、社会性などが十分にまだ子どもたちの中に育っていないという現状は、全国もそうですし、それと同じように四日市にもあるということは言えるのかなというようなことを思います。

その代表的な例としてこれを挙げてきたというのが実際のところかなと思っています。

○杉浦教育委員 今のご指摘の箇所なのですが、5ページの5のところに入れられなくもないのではないかなというふうにも思います。ここは、四日市版コミュニティスクールにおさまっていつてはいますが、前段の部分で、やはり家庭での生活習慣のところがありますので、ここに少し触れることによってご指摘の箇所もみんな入ることはできるのではないかと思います。

○松崎教育委員 これが最後に来てしまったというのが、ちょっと順番が逆かなと。

○館政策推進部長 順番も気になるということですね。

○松崎教育委員 流れとして入ってしまったという感じですかね。

○加藤教育委員 確かに委員がおっしゃるように、これが当面の課題なんですよね。だから、やっぱりこれも大事にしないといけないので、これを達成するために、原案の1番から5番までのことを大事にしながらこれをやっていくというんですけど、あまりにも書きぶりが具体的です。

○松崎教育委員 ここだけ浮いていると。

○加藤教育委員 松崎委員がおっしゃるようなところは、市民の方が読まれたらもっと思われますよね。学力向上とか、点数をどうやって上げてくれるのかという疑問なり要求に対しては、後ろの5つの柱が答えているかといったら、なかなか答えないことはないんですけど、ちょっとつながりませんね。

ということは、今ご指摘があったところはちょっと具体的なので除くのかな。ちょっと具体化していますから、もうちょっとさらりと。

○杉浦教育委員 さらに書きつつ、3番のところでの順番も変えるということですよ。3番とそれ以降の流れの順番も合わせていったほうが読みやすい。

○松崎教育委員 家庭学習とはっきり出してしまうのであれば、体力よりも大事だというふうに出てきますよね。

○田中市長 2ページの3の順番と基本理念の順番はやっぱり合わせておいたほうがいい。

○館政策推進部長 並べたほうが読みやすいということですね。ちょっと具体的に書き過ぎています。

○田中市長 スマホまではね。

○加藤教育委員 もう少し大きくくりでもいいかもしれません。

○館政策推進部長 このあたりを、順番と中身を少し簡略化させていただきます。ありがとうございます。

あと、この中身について何かご指摘、よろしいでしょうか。

それでは、ありがとうございました。ほんとうに具体的にいろいろとご指摘、ご意見を頂戴できましたものですから、今日いただいたご意見も踏まえまして、次回までに、今度、素案から案になっていくということになろうかと思いますが、その方向で修正をさせていただきますので、ぜひよろしくお願いいたしたいと思います。

3 学力向上について

○館政策推進部長 それでは、事項書の次、3番の学力向上に移らせていただきます。

これまで、学力向上のための懇談会が既に2回開催されておりますので、その概要を取りまとめた資料がございますので、これについて事務局からご説明をさせていただきます。お願いします。

○吉田教育監 お手元に、A4・1枚の懇談会第1回、第2回の概要と、A3判のカラー刷りになっております資料がお手元にありますでしょうか。

今まで5月と7月に2回懇談会を進めさせていただきました。懇談会での主な意見としては、柱立ての大きなものとして、1つは、社会人になっても通用する学力について、2つ目が、子どもたちの主体的な学び、学ぶ意欲について、3つ目が、時代の変化に対応した教育についてというような内容で今お話をさせていただいているところでございます。

この2回の話し合いの中で、そのことだけではなかなか焦点化できなくなってきておりますので、その部分でA3のものを前回お示ししまして、その中でより具体的な話し合いを進めていこうというようなことで考えているところでございます。

特に、第3回、第4回で協議する教育施策につきましては、学校でも今現在取り組みを進めていますが、読解力、要約力、表現力を磨くための1分間コメント、この取り組みをより充実していくことにつなげたらどうかとか、学ぶことと将来のつながりを意識したキャリア教育、それから社会のグローバル化を見据えた英語教育、これは民間の代表の方の中からもそういうご意見がございました。

それから、先ほども特出しで1ページつくるというような形となっておりますが、四日市の特徴を生かした授業の展開、そういうようなことは必要だろうというようなことで、話し合いの方向としては進んでいるところです。

特に、A3判の上段は、四日市の子どもにつけたい力としてメインになっております社会人になっても通用する問題解決能力のところをもとに、学力向上のための2つのアクション

ョンということで、特に右側の学びの質の向上、こちら側を今話し合いの中心としてより進めていこうという方向で進んでいるところです。加藤委員にはそこでの取りまとめを今していただきながら進めていただいています。

○館政策推進部長 この学力向上アクションプランといいますのは、先ほどの大綱の1ページのところにごぞいます図表で、大綱は網羅的な教育全体ですが、その中で特に学力向上に係る部分の具体的なものを議論していただいております。だから、大綱にも密接に関連してまいりますので、今日のご議論なども踏まえて、先ほど事務局で説明をいただきましたA4のペーパーの一番下の、今後、第3回、4回で協議する内容を4点ぐらいに絞り込んでいくということを事務局で考えておるわけでございます。このような内容でよろしいかどうか、少しご意見を頂戴できればという趣旨でございます。

特に学力向上に向けての施策についてでございます。この4点ですね。読解力、要約力、表現力、それからキャリア教育、グローバル化を見据えた英語、それから四日市の特色を生かした教育と。

いかがでございましょうか。

○松崎教育委員 学びの質の向上のところでもそうなんですが、日常英会話能力の育成が2番に上がってくると、懇談会でもこれからの教育施策で3番というわりと高い位置に上がってくるといのはちょっと意外かなという気がしたんです。その前にまだ、読解力の前に字もまだ書けない、漢字もまだできない。今回、調査でことわざや故事成語も全国的にもレベルが四日市は低かったという結果が出ているのに、ちょっといいのかなという不安が、親としてしたんです。

○館政策推進部長 基礎的なということですね。

○松崎教育委員 よく言われる日本語教育というか、まず読み書き。平たい言い方なんですけれど、ちょっといきなり過ぎるかなという気がしました。

○田中市長 英語教育の前に日本語教育があるべきというのは、僕も同意見です。

○館政策推進部長 教育委員会として、基礎的な読み書きについてはどうでしょう。

○吉田教育監 決して、順番が上にあるからそれを重要視しているということではなくて、議論の中で進めていく中で、やはり日本人でありますし、アイデンティティーという部分もありますので、当然日本語教育というのは重要だと私たちも認識しております。ただ、これから進めていく中で、この地方都市に住んでいても、自分で起業していったり何かする場合には、やっぱり英文の特許の文書を読んだりというようなことが大変必要になってく

るといふようなところで、いつまでも基礎基本だけでとどまっても、伸びる力というのを伸ばしていくという方向では難しい部分もあるんじゃないかなというふうには考えているところです。

ですので、1つには、やっぱりそういう力も備えられるように進めていくのは必要かと思っているところです。

○松崎教育委員 英語教育を推進していくという流れですか。

○吉田教育監 このことは、四日市は今までものすごく重視してしまっていて、YEFと言っていますけれども、ロングビーチから英語助手にたくさん来ていただいて、触れていただく機会なども進めていますので、このことはやっぱり大事にしていきたい部分で、今まで大事にしてきていますので、より高める必要はあるかなと思っております。

○田中市長 基本的な英会話能力を中学校3年生までに身につけるといふのは、実は僕もマニフェストの中に入れてあるんですけど、それだけじゃなくて、やっぱりそのもとになる日本語教育、自治体によっては、国語のほかに日本語という教科を設けて、日本語の伝統みたいなものを、ことわざも含めて、そういうことをしっかり力を入れているところもある。英語教育は、僕の意見としては、外せないけれども、日本語教育をもっと強く位置づけをするべきと思うんです。

日本語という教科を別に設けるかどうかは別として、位置づけはしっかりしておくべきです。

○葛西教育長 やっぱり学校教育の役割としては、教科の力をきちっとつける。その中でも基本となっていくのは、これは国語の力、日本語の力ですので、やはりこのところは、市長が、読解力、要約力、表現力を磨くための1分間コメント、これをやっぱり大事にしていきたい、特に中学生にはこの力をしっかりつけたいという、そういう思いを持ってみえて、そういうことをしっかりすることが社会に出てからきちっとコミュニケーションができる、そういう力の基盤になっていくというようなことも当然考えられるわけですので、やはり国語の力、言語活動、そういうことは四日市も大事にしてきましたから、これはやっぱりこの中にも言葉として入れていくことは大事なことと思います。

○田中市長 僕は、1分間コメントのその前に、その前提となる日本語教育が必要だと思うんです。読解力、要約力、表現力はその後のことであって、まず、基本的な漢字であるとか熟語であるとか、そういうものは知識の部分なので、今、1分間コメントのところで書いてあるのは知恵の部分です。

○松崎教育委員 どう使うかという。

○田中市長 そう。その前の前提になる知識の部分をやっぱり位置づけをしておかないといけないのかなと。

○杉浦教育委員 「学力向上に向けた」となっているんですが、先ほどコメントにも、今までずっと基礎基本はやってきたというところで、あえてここには載っていないのかもしれないんですが、ただ、やってきて十分成果が上がっていて、どこを目標にするかわかりませんが、全国よりも上回っている結果が出ているのであれば、外しても問題はないと思うんですが、まだ成果として上がっていない現状があるので、やはり私は、基礎基本というものもしっかりと入れた上で、今回提示いただいた4番の①から④というのは、これからの時代に、外部環境などが変わってきた時代を見据えたプラスアルファのところと思うんです。なので、またそれとは違ったくくりとしてやはり基礎基本に対する何かが見えてきたほうがいいと。そこを基本に学びの環境と質の向上ということのアプローチから考えていただいているので、おそらくそれぞれの学びの環境が充実すれば、結果的に基礎基本の学力が向上していくというような流れだと思うんですけども、なかなか基礎基本の部分の表現がこの中にはあらわれてこないというのが、少しやはり保護者の方が不安になるところなのではないかと。

確かに、国語力というのもそうなんですが、それはやはり学調が国語、数学というような科目でやっているのので出てきますが、それだけではなく、基本の教科全てにおいてはあったら、もしかしたら全国を下回ってしまうという可能性もありますので、国語だけを特出しにすることはなく、基礎基本となるような全ての教科の基礎、今までの懇談会の概要の中にも「紙に書かれた知識ではなく」と書かれているんですが、「ではなく」ではなく、「だけではなく」だと思いませんか。そういった基礎基本の知識がないと応用の仕方もわからないし、学ぶことによって知恵が出てくると思いますので、やはり基礎基本の部分に対する表現というものは、あるほうがどんとした感じになると思います。

○館政策推進部長 どうでしょう。その辺はアクションプランをつくっていく中で、ベースのところ、最初のところにそういうことをきちっと書き込むとか、そういうところはやっていくことですから、そこをきちっと書き込んでいくということで。それに具体的に何か基礎的なことを充実するような行動を実際にするのか、それとも今やっておることをきちっとやることでそれができるんだというのか、そこは一回確認して書き方を調整しないといけないですね。

○加藤教育委員 私も座長をさせてもらっていますので、あと2回をどうまとめるかというのは、今もお話を聞きながら張りめぐらすんですけど、2回の会議の中でも、先生方は確かな授業をしてくださいねというお声もざっくばらんにいただいているんです。だから、今も教育長もおっしゃったように、6・3の間は授業に尽きるんですよ。

だから、その授業の中で当然基礎基本というのはありますし、それこそバック・トゥー・ベーシックに戻ったら、まさに基礎基本ですから、確かな授業の中身として、子どもたちに確かな基礎基本が身につくようなことも踏まえながら、大きくはここに高らかに述べていただいているところへつながっていく事項だと思いますので、そのあたり、今後3回、4回で、あまり言葉に振り回されることなく、確かな四日市の子どもをつくっていくような順序立てなり現場への浸透というのも考えて、私も座長として責任を持って進めてまいりたいと思っています。おっしゃる意見も当然ですので、かねてから杉浦委員も、学力向上で平均点が上がる施策はとれないのと丸い言葉でおっしゃってみえたこともありますので。

○杉浦教育委員 例えばですけど、A3の資料で、つけさせたい力ということで問題解決能力とあり、学力向上のための2つのアクションで2つに並列になっているんですが、社会人になっても通用する問題解決能力というのは、学びの環境の充実のところからもすぐつながってくるのがいっぱいあるんですね。学力向上のための2つのアクション、白抜き文字で書かれているところの下にも何かしら、基礎基本が大事なんだというようなコメントがここに入っているといいのかなというふうには思います。

○加藤教育委員 確かに、過去2回の議論の中でも、学力とは何かというのは非常に難しい概念でして、なかなか四日市版学力という捉え方も難しいんですよ。むしろ、問題解決能力となった場合には、これはどなたがイメージしても、問題解決能力というのはある程度提示ができるんですけど、学力は広義の学力から狭義の学力までいっぱいありますので、一般的な言葉としての学力というのは響きはいいんですけど、一番初めにつけていただいた学力向上のためのアクションというところの「学力向上」のところちょっと漠とした意味で来ていますので、むしろどうせ漠とするなら、四日市の子どもにつけたい何かでのアクションプランというぐらいのことのほうがまとめやすいのかもしれない。

○松崎教育委員 全国よりも下回っているのに、大きなことを言っているかなと保護者から見ると思ってしまうんです。

○田中市長 中学生は上回ってます。

○加藤教育委員 あれはありがたいことですよね。逆だと大変ですけど、9年間でちゃんと達成するところまでは行きますよというのは、四日市の特徴的な姿なんですけど。

○松崎教育委員 それなら、小学校はうちのやり方で間違いないという自信に満ちたものであればいいんですけど、中学で何とかなるからというのは。

○加藤教育委員 それもありますよね。じゃあ、学力の高いと言われている先進県で、高校以降の力はどうなんだといたら、必ずしも相関は見出せていないようですから、それはまだ四日市の子どもたちがぐっと高、大と、あるいは社会人へと飛躍していく力は持っているのかもわかりません。だから、開き直って、今の四日市の小学校の教育がこれでいいんだと言うのも、松崎委員おっしゃるように、それもいいのかもわかりませんね。下手にひねくり回さなくて、確かな授業をしましょうよということであっていいのかもしれない。

○渡邊教育委員 基本的に本の好きな子は伸びますね。意欲が増えてきて、そして、みずから読み込もうと、主としてわからないことは調べるということにつながりますからね。やっぱり私は、基本的な小さい時期から本が好きになる、それで本を読み込む、そういうことが身につけば、全て私は伸びると思うんですよ。そのところが、いろんなところには書いてあるんですけどね。

○田中市長 こっちの5の③のところに書いていないですか。

○渡邊教育委員 そうそう、書いてあるんですよ。

○田中市長 読書と書いてある。新聞記事は書いてある。

○渡邊教育委員 それも5の③のところに書いてあるんですね。

○松崎教育委員 読書はない。

○田中市長 読書はないでしょう。

○館政策推進部長 1分間コメントとしております。

○田中市長 いや、1分間コメントは読書に限らないので、読書や新聞記事やコラムや、そういったものを対象にして1分間コメントなので、読書という言葉も入れておいたほうがいいと思う。

○渡邊教育委員 だから、どこに入れればいいのかと思って。

○田中市長 ③のところはどうでしょうか。新聞記事の前に読書、本や新聞記事やコラムを入れる。

○館政策推進部長 そもそも、学校での朝の読書などいろいろやっていますよね。

- 渡邊教育委員 朝5分間やるとか、実際にやっているわけですから。
- 館政策推進部長 せっかくやっていることですし、それをここへ表現していくか、入れるならどこがいいかちょっと検討させてください。
- 田中市長 今そこへ目が行ったもので、④のICT機器を活用した意見発表というのは、例えばどんなことなんですかね。
- 館政策推進部長 ここは、具体的にはどうですか。
- 長谷川教育総務課課付副参事・政策グループリーダー 先進的な教育ということで、例えば、子どもたちがICT機器を活用して授業で発表したり、タブレットなどを使って情報を集めたり、学習に活用するということと、我々がやるプレゼンテーションのようなイメージもあるんですが、新しい将来を見据えた子どもたちの自分たちの学習での表現の仕方に機器を活用していくという、そういうことを書いてございます。
- 松崎教育委員 市長もおっしゃいましたけど、どこかに国語力の育成の徹底とか、何かそういう言葉を入れたいなという気がします。ICTを使ったからといって力がほんとうにつくかどうかというよりは、きちっと勉強をしていくことがまず大事じゃないかと。聞く姿勢、見る姿勢というか。
- 田中市長 ICT機器は情報の収集に使うのであって、それで発表するわけじゃないでしょう。
- 吉田教育監 いろいろな活用の仕方があります。ただ、今、企業や一般社会人など、まとめたものを視覚的にも相手の方に広く知っていただくという部分で、例えば例として挙げるならば、修学旅行とか自然教室とか体験学習をしたときに、そのことを映像で見せながらも、文字を示しながら説明をしていくということが今、これはどうしてもやっぱり必要な力だと思っています。
- 館政策推進部長 松崎委員のおっしゃる学力向上アクションプランの中の基礎的な部分の表現ですが、基礎的なものは質の向上、環境の充実ではないかもしれません。基礎的な部分は、前段にちゃんと書き切ったほうがいいのかなという気もします。
- 実はここで決めることじゃないんですけど、そちらの加藤先生の学力向上に関する懇話会の中で一回それを議論してはどうでしょうか。
- 加藤教育委員 それもそうなんですが、構想、(案)がついていますが、基本的にこのあたりで、先ほどの前段の教育大綱のご議論の中で説明していただいたことと、今回のカラーのA3資料のこの中身が大きく離れていなければ、これでよしとしていただいたら、

ここの具体化はもう少しまた懇談会で深めていきたいと思ひますし、広げていきたいと思ひますが、これでちょっとここがだめだよねとなると、議論が深まりませんので、私自身はこういう考え方でこれを、さらにこの言葉の裏にあるものを委員の皆さんからいろいろお聞きしながら、具体化できるところへおろしていきたいと思ひますので、今日事務局から提案いただいた第1回、第2回の概要の一番最後の今後の、柱立てというのはこういう柱立てがいいのかもう少し私も時間をいただいたほうがいいなど。

こんなことが話題になってくるんでしょうけど、これを1個ずつ潰していくなんていうような懇談にはならないように思ひますので、むしろカラー資料の中の具体化施策にいろいろ示唆いただいたら、懇談会の役割は果たせていくのかなと思ひますので、非常にいろいろな経験をお持ちの方が委員の皆さんにおみえになりますので、そういう方からのご意見も聞きながら、そして、再三問題になっていますように、基礎基本はどこに行ったのというところがございしますので、そこも踏まえながら、あと2回議論してまいりたいなというふうに思ひています。

○**田中市長** 加藤委員がおっしゃったのは、この4つの基本施策はあるんだけど、これを意識しながらA3で議論を進めるという意味ですよ。

先ほど来出ている基礎基本の学力を育む教育的なものが、どこかに位置づけがされるかどうかを検討していただくということですね。

○**加藤教育委員** そういう議論があつて、今のような議論で基礎基本はどこかに置かないということであれば、この中にやっぱり盛り込む必要も当然あるかと思ひますし、個人的にも、どこかでもうちょっと基礎基本はあつたほうが、この構想案が位置づくのかなと思ひます。

○**田中市長** 国語も数学も理科もそれぞれ基礎・基本があると思ひるので、それはそういう言い方にしておいて、全ての教科のさらに基本になるのは国語だと思ひるので、日本語教育というものを少し比重を大きく位置づけてもらうというのは、私としては切なる願ひなんです。

○**館政策推進部長** そこも含めて議論いただきたいですね。

○**松崎教育委員** 保護者としても大切です。

○**加藤教育委員** 読み書きというのが学ぶ手段になりますので。

○**田中市長** そうなんです。全ての基本です。

○**加藤教育委員** だから、かつてのアメリカもリード、リードで教育をやつてきた経緯も

聞きますので、まさに今、市長がおっしゃる読み書きというところは、手段を持たなかったら学ばませんので、しっかり押さえていきたいと思います。

○館政策推進部長 その点も含めて残り3回、4回の方でご議論いただければと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○館政策推進部長 ありがとうございます。

4 その他について

① 第3次学校教育ビジョン策定について

○館政策推進部長 それでは、事項書の4番のその他に移らせていただきます。

まず、4番の①第3次四日市市学校教育ビジョンの策定についてでございます。

これについても資料がございますので、事務局から説明をさせていただきます。よろしくをお願いします。

○吉田教育監 お手元のA4・1枚の部分をご覧いただければと思います。今、ビジョンの位置づけということで教育大綱の中で振り分けさせていただきましたように、教育総合計画の後半5年間に携わっての教育分野の基本計画について進めているところでございます。

具体的には、2のビジョンの計画期間ということで、28年度から32年度までの5年間で想定しているところです。そして、来年度、学習指導要領が改訂されるという公示されますので、その部分で見直しも図らないといけない部分が出てくるかもしれませんが、策定後3年を経過した時点でのマイナーチェンジというようなことも考えております。

それから、3番目、ビジョンの構成としましては、第3次の学校教育ビジョンでは、教育委員会でもご検討いただいているところですが、確かな学力の定着、豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成、健康・体力の向上という、この3つを基本目標としているんですが、子どもにつけたい力ということで掲げて、施策の展開を図っていくということと、それから、子どもにつけたい力の基盤として、学校教育力の向上、そして、安全で安心な学校環境、学習環境ともいうところもあると思いますが、それから、先ほど来からご議論いただいておりますように、家庭・地域との連携・協働というこの大切な要素を切り口としまして、子どもを支える学校づくりと整理して、学校教育力の向上、教育環境の整備、地域とともにある学校づくりを掲げて、学びの環境の充実を図っていきたいというふ

うに考えているところでございます。

策定のスケジュールとしましては、本日午後からの教育委員会会議の中でもお話をいただきますが、前回の第2次教育ビジョンにおいてもパブリックコメントを実施したということで、今回についても実施をしていきたいと考えております。

それを経まして、11月から12月にかけて最終案を決定し、議会への報告を行い、来年、年明けの2月には小中学校への説明会の開催をしていきたいというスケジュールの予定でございます。

以上です。

○館政策推進部長 ありがとうございます。

○加藤教育委員 教育大綱の完成の部分と、この4番のスケジュールとがどう入り込んでいくかはタイミング的に考えていただかないと、ビジョンが先走ってしまって、その大もとである大綱が後になってもちょっとぎくしゃくします。

○吉田教育監 一番懸念しているのはその部分でして、やっぱり大綱のある程度固まった、今日の議論で随分深まって見直しが図られるのではないかと思います。大もとの考え方、理念という部分では変更がないのではないかなと考えております。

そのことをもとに学校教育ビジョンも整合を図りながら、施策を展開していくということです。

○加藤教育委員 だから、11月、12月ごろを見据えて、教育大綱もある程度固めてしまおうということになりますよね。

○吉田教育監 大綱は、10月にはもう打って出るという形にするということでもあります。

○葛西教育長 次回の総合教育会議では、この教育大綱をしっかりと固めてというようなことですね。

○加藤教育委員 ちょうど制度の変わり目でちょっとぎくしゃくします。

○館政策推進部長 これまでの学校づくりビジョンの流れがあります。そこに教育大綱が入ってきます。先ほどご議論ありました5つの基本理念がぴたっと合うのかどうかというのをちょっと懸念しています。大綱で1から5まで明記しますが、このとおりに教育ビジョンをぴったり合わせていけるかどうかについて今ご指摘がありましたが、中身は当然入れていますけれども、ぴたっと合っているかがちょっと懸念するところです。

○田中市長 でも、基本理念の5つの仕分けというのはぜひ学校教育ビジョンで生かしてもらいたいね。だから、錯綜していると非常にわかりにくい。

○**館政策推進部長** どうでしょう。その辺はまだ現時点で余地がありますか。

○**吉田教育監** できるだけそれをやるところでいきたいとは思いますが、午後からの教育委員会会議の中でのご議論になるのではないかなというふうに思います。

○**加藤教育委員** 事務局は大変なことになるのかわかりませんが、今、市長おっしゃるように、縦に通していただかないと。もちろん、この中にもインパクトもいります。実際現場へおろしたときに、一体何をまたどうするのということで混乱しますので、時間がなかったら大綱だけ読んでくださいねと校長先生へ言ってもよろしいし、ゆっくり読んでいただいたらビジョンですよというところへ来ないと。

○**田中市長** やっぱり体系立っているというのは非常に大事なことだと思うんですね。

○**館政策推進部長** そこは午後の教育委員会でまたご議論いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、教育ビジョンについては、今後このようなスケジュールと方向で行くということでございますので、特にございませんでしたら、ご議論いただく内容は以上でございます。

その他に何かございましたらいかがでしょうか。

○**田中市長** 教育大綱の基本理念は、非常に四日市の独自性が出せる基本理念になりそうな気がして、非常にありがたいなと思います。独自性を生かした4番の他にも、例えば1番の社会人になっても通用する問題解決能力というのも、学力と問題解決能力を関連づけて位置づけたというところが、四日市の特徴であると思うんですね。

他の自治体ではやはり学力とずっと通しているもので、その位置づけをそういうふうにしたということは1つの特徴だと思う。学力とは、そのまま読むと学ぶ力と読むんだけど、実際は学ぶ力というよりも学んだことによって培った力なんですよ。

それから、3のところの、何のために学ぶのかという目的意識を持たせることは、あんまりやっているところはないと思うんですね。学力を向上させるための教育というのはどこもやることなただけど、ではなぜ学力を向上させるのかの原点に戻って自ら学ぶ意欲を高めるという、そこまで戻ってやるというのも特徴の一つだと思うんですね。それはまさしく、最後のところに書いてある、学校での学びを将来の社会貢献や自分自身の人生の充実、幸せにつなげるということです。

だから、特徴というのは、4に集約されているんだけど、それは都市の特徴を生かしているということであって、1とか3の部分も、かなり今回の教育大綱の中の特色的な

部分だと言ってもいいと思うので、その辺はちょっと意識をしておいてほしいなと思います。

○館政策推進部長 PRしていく際、そこも中心にですね。

○葛西教育長 四日市の教育の考え方ということですよ。

○加藤教育委員 さらに言うなら、それに裏づけされた施策、方策を持っていないとだめですので、そのあたりを意識してやっていって行くということですね。

○館政策推進部長 今後PRしていくときには、そのあたり気をつけていくということですね。先ほど加藤委員からも、できた後のPRの仕方ということのご議論もありましたので、その部分でもまた議論していければと思います。

それでは、よろしいでしょうか。

② 次回開催について

○館政策推進部長 次回の開催についてでございます。今回は、10月21日水曜日の午後1時30分からを予定しておりますので、ぜひお集まりをいただきたいと思います。今回は、本日も意見をいただいた内容で大綱を修正させていただきました、そこで最終案を固めていきたいという思いがございます。

それから、先ほどからあるPRの仕方、どういうふうに公表していくかの手法についてもご意見を頂戴しながらまとめてまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日は長時間にわたりましてご議論をいただきました。具体的なお意見をいただきましてありがとうございました。また次回もよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

午前11時53分 閉会